

みんなの競輪カップ



2/24(土) 25(日) 26(月)  川崎スポーツ

レース展望

2月24日から開催される川崎競輪はナイターで行われるF2戦。前期S級の実力者と、若手機動型がぶつかる好レースに期待できそう。

地元南関ラインは矢口大樹(千葉95期)と金田涼馬(神奈川119期)の強力な機動型が軸となる。地元金田がどこまで調子に戻しているかが鍵となる。マーク巧者鈴木良太(静岡86期)が機動型を援護しつつVを狙う。関東ラインは前期S級の今井聡(東京113期)の自在脚が中心だが、高い機動力を持つ矢野昌彦(栃木91期)も今期2班で予選スタートながら存在感が大きい。キメ脚シャープな女

屋文伸(埼玉83期)やカマシ、まくりに威力ある小田倉勇二(埼玉91期)らも揃い戦力は充実している。北日本ラインはやや劣勢。宇佐見優介(福島115期)あたりが自ら前々へ攻めて活路を拓くか。遠征ラインの主役は末広快理(兵庫121期)で、機動力は今シリーズ屈指。伊藤成紀(大阪90期)は自ら動いてもV候補だが、末広と好連係決まれば更に有利となる。

チャレンジ戦は養成所でナンバーワンで、なおかつ卒期チャンピオンの荒川達郎(埼玉123期)と、鋭いダッシュで高い勝率を誇る内山慧大(福井123期)。ダッシュ型ながら積

極的な走りで力付けている菊地圭(宮城123期)らがV争いを繰り広げる。地元の池辺聖(神奈川123期)も徐々に調子を上げてきており、持ち味の地脚を発揮する場面も増えてきた。新人選手の激しい優勝争いが繰り広げられそう。全体的には南関勢の層が厚いが、最後は各地区の若手機動型がどれだけ活躍できるかが鍵になってくる。これだけ力のある若手選手が揃っていると、決勝は力勝負の決着も十分にありそう。番手に付けるマーク選手の対応力も車券的中の大きな判断要素になってくるか。

前期S級の實力者と若手の激突

A級
主力選手



末広快理 兵庫 121期

カマシ、まくりに威力がある末広快理は今年に入り安定感が増してきた。抜群の勝率、3連対率で1月松阪では完全Vも達成している。S級に向けては弱点を克服するよりも、長所を伸ばしていきたいと言う末広の豪快なスピード戦に3日間注目していきたい。

A級
主力選手



今井聡 東京 113期

今期は落車による負傷で出遅れた今井聡だが、今シリーズのV候補の一人。前期S級では自在に戦い、強気な位置取りを基本に組み立てていた。A級では強気な位置取りよりもタテ勝負が基本になる可能性もあるが、いざとなれば何でもこなせる総合力の高い選手だ。

A級
主力選手



矢口大樹 千葉 95期

長年S級でもA級でも活躍している経験豊富な機動型。持ち味のダッシュ力を生かした積極策が持ち味で、南関勢にとっては頼もしい存在。以前ほどの強引な攻めは減ったものの、流れのなかでしっかりアクションは起こしてくる。地元南関ラインのキーマンとなる。



A級
注目選手
荒川達郎
埼玉 123期

123期ナンバーワンの在所属成績を残し、卒記チャンプにも輝いた荒川達郎が神奈川のバンクに初登場。学生時代から輝かしい実績を残してきた本格派で、長い距離を踏めるスプリント能力も高い。いつ特昇班してもおかしくない実力。今シリーズもV候補の筆頭だ。

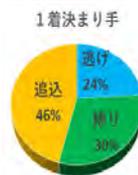


A級
注目選手
内山慧大
福井 123期

養成所の成績は49位と振るわなかったが、鋭いダッシュを生かした自力勝負でここまで2度特別昇班に王手をかけている。まだまだ持久力に課題は残すが、持ち味を生かした走りに徹すれば昇班しても十分に戦えるはず。同期のエリート荒川を倒すならこの人か。

川崎競輪場バンクガイド (2023年10~12月データ)

1年の改修工事を経て、昨年10月からリニューアルした川崎バンク。12月まで363レース(ガールズを含む)を終えた段階の1・2着の決まり手データは表の通り。基本的に構造は旧バンクを踏襲したもので、逃げ・捲り・差し・マークについて、それぞれのパーセンテージは以前と変わりはない。ただし1着に限って言えば、逃げ・捲りの決まり手が54%と過半数越えて、自力型のアタマから組み立ていく車券戦術が可能だろう。川崎名物イエローライン付近の強襲コースは、バンク改修により最終4コーナー走路をスムーズに回ってくるようになり、前団選手の失速が少なくなったため、今のところは出現率がそれほど高くない印象だ。



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル